

浅川町水道事業計画

キーワード	項目	現状と施設整備概要
水需要予測	平成18年度実績値	給水人口 6,820 人 1日最大給水量 1,912 m ³ /日
		普及率 95.9 % 1日平均給水量 1,683 m ³ /日
	将来予測値 (平成40年度)	給水人口 6,002 人 1日最大給水量 1,745 m ³ /日
		普及率 100 % 1日平均給水量 1,536 m ³ /日
	普及率の向上	生活用水の安全性確保の点から、水道の加入を促進します。
安定水源の確保	井戸の状況	新町水源 昭和60年より使用している井戸で、計画取水量は400m ³ /日です。井戸能力が低下しているため、井戸の機能回復を図ります。
		大明塚水源 平成6年より使用している井戸で、計画取水量は770m ³ /日です。井戸能力が低下しているため、井戸の機能回復を図ります。
		久保山水源 平成3年より使用している井戸で、計画取水量は250m ³ /日です。井戸能力が低下しているため、井戸の機能回復を図ります。
		宮前水源 平成6年より使用開始している井戸で、計画取水量は350m ³ /日です。井戸能力が低下しているため、井戸の機能回復を図ります。
		天神前水源 平成13年より使用開始している井戸で、計画取水量は550m ³ /日です。他井に比べて安定した取水が可能なものの、状況をみながら井戸の機能回復を図ります。
		森下水源 平成12年より使用開始している井戸で、計画取水量は330m ³ /日です。鉄分が多いため揚水管が詰まりやすいため、定期的な点検・修繕を行います。
		根岸水源 昭和54年より使用している井戸で、計画取水量は160m ³ /日です。水源が安定していないため、維持管理が難しい状況です。施設統合を契機に廃止します。
		ゴルフ場水源 平成7年より使用している井戸で、計画取水量は165m ³ /日です。水源が安定していないため、維持管理が難しい状況です。施設統合を契機に廃止します。
		新規水源 過去のデータにより収水層は仁公儀層に期待されています。今後、詳細な調査を実施し、新規水源の確保に努めます。
水道施設の更新	施設統合	平成19年4月1日より、4つの簡易水道事業を統合し上水道事業として運営しています。これまで、簡易水道の設置により普及拡大を図りましたが、多くの水道施設が点在する結果となり、施設の維持管理が難しく、加えて経年劣化による維持管理費の増加が予想されます。このため、施設配置のあり方について検討した結果、「根岸浄水場」、「畑田配水池」、「福貴作配水池」、「畑田ポンプ場」の統廃合を行います。
	施設更新	施設統合の推進、施設能力の確保を目的に、「太田輪浄水場」の拡張、「大草配水池系ポンプ場」の建設、さらに、将来的には、「行人坊浄水場」の拡張を行う方針であります。今後、更新時期を迎える施設等については「耐震化」や「緊急時の応急給水施設」としての整備を図ります。
老朽管の更新	石綿管の更新	石綿セメント管は安価であったため全国で大量に使用されたが、耐久性や耐震性に乏しく漏水事故が起きやすい状況です。浅川町には石綿セメント管（導水管・送水管・配水管）が多く残っており、平成18年度末で残存延長は1.6kmで、水道管総延長9.1kmに占める割合は1.7%となっています。このため、漏水事故が多発している状況にあります。漏水防止、安定供給、災害に強い水道のためにも、計画的に更新していきます。
	老朽管の更新	塩化ビニール管をはじめ、老朽管が多く残っており、漏水防止や耐震性の向上といった点からも、これらの老朽管を順次更新します。
経営基盤の強化	水道料金の適正化	浅川町の水道料金は、160円/m ³ （供給単価）で、県内平均203円/m ³ と比べて比較的安い料金設定となっています。今後、施設拡張、施設更新は必要であるため、適正な水道料金の設定を行い、水道事業の健全経営に努めます。
	人的資源の確保	将来共に安定した水道事業を行っていくために水道技術管理者を育成し、技術継承を図りながら人員配置や外部委託等について検討を行います。
総事業費		浅川町における平成40年度までの水道整備に関わる総事業費は約1.6億円程度必要となります。